

風土記の丘の花だより¹⁵⁶

今、そしてこれから見られる植物(2022年10月15日)



秋めいてきましたね。朝、寒暖計を見ると20℃を下回っている日が多くなってきました。この時期、歩いていると急に飛び出してくる大きめのバッタのような虫はクダマキモドキの仲間です。ここには、その仲間が3種類います。こんな虫です。ご覧になったことはありませんか？写真はヤマクダマキモドキといいます。



先日、どこからともなく、かすかに甘い香りが漂って来ました。辺りを見回すとナワシログミの花が咲いていました。このグミの実は翌年の初夏に熟します。それが田んぼの苗代を作る時期と重なるのでこの名前が付いたと言われています。昔の子供はよく食べましたが、今ではそんな子も見かけなくなりました。グミの葉の裏は銀色を帯びていますが、それは鱗状毛というものがびっしりと生えているからです。



濃いピンク色の花がよく咲いています。イヌタデです。本や図鑑などには「よくアカマンマと呼ばれます」などと書いていますが、私の生まれ育った地域ではそんな呼び方は聞いたことがなかったです。もちろん、今でもそんなに呼ぶ方にお会いしたことはありません。そんなに呼ぶ地域が本当にあるのでしょうか。



天王塚に向かう新しい道沿いに大きなイネ科の草、セイバンモロコシがたくさん生えていて、今、花が咲いています。今まで見かけませんでした。工事によって種子が持ち込まれたのでしょうか。この他にも、それとおぼしき新顔の草がたくさん生えてきています。



イシミカワの実がきれいに色づいています。三角形の葉が特徴的です。これも天王塚に向かう道沿いで撮りました。でもこれはとても大きな株なので、元々生えていたものだと思います。全草とげだらけで、観察には注意が必要です。漢字では石実皮と書くようですが、さて、どんな意味があるのでしょうか？

松下